

令和8年度社会福祉法人ないえ福祉会 事業計画

事業方針

令和7年度は、サービスの透明性や利用者と地域との関係作りなどを目的として居住系サービスに地域連携推進会議の設置が義務化されました。施設入所事業、共同生活援助事業それぞれ地域や保護者の方々にご協力いただき会議を実施しています。今後も地域とのつながりを大事にしていきます。

令和8年度は、一部事業の臨時応急的な報酬の見直しが行われることとなっており、特に就労継続支援B型事業で影響が出る見込みです。これは、本来の趣旨に沿わない事業所の新規参入が増加し、サービスの質の低下が懸念されることから実施されるもので、共同生活援助事業についても新規事業所については、引き下げた基本報酬が適用されることとなります。これを機に改めて各事業で適切な事業運営を継続していくよう努めたいと思います。

物価の高騰やエネルギー高騰への対応として、電気事業者の見直しを検討しています。他の事業所等の情報を収集し、経費の削減を図りたいと思います。

施設入所事業では、利用者の高齢化が進み、今後車椅子対応型福祉車両の更新が必要となりますので計画的に進めていきます。ハード面では暖房配管に続き、ボイラー本体の更新も必要ですので準備をしたいと思います。

就労継続支援B型事業では、臨時応急的な報酬の見直しで平均工賃による基本報酬が下がる他、核となる椎茸作業で使用している菌床の仕入れに課題が出てきたため、培養室の建て替え計画を見直し、菌床の安定した仕入れを目標に事業を進めていきたいと思います。

共同生活援助事業では、各ホームのメンテナンスの他、入居者の募集を継続し、安定した事業運営が継続できるよう努めます。また、居宅介護事業と連携して個々のニーズに寄り添っていききたいと思います。

中・長期計画

(1) 施設入所事業

- ・福祉車両の更新
- ・暖房設備の更新
- ・個室化とナースコールの設置に向けた準備
- ・地域交流ホームの改修工事に向けた検討
- ・入所施設建て替えに向けた資金の積立

(2) 就労系事業

- ・菌床の安定的な仕入れ先の確保
- ・利用者の高齢化を踏まえた事業の検討

- ・就労移行支援・就労継続支援B型新規利用者募集
- ・ハウス内にエアコン設置
- ・公用車の更新の検討

(3) 共同生活援助事業

- ・各ホームの設備メンテナンス
- ・日中サービス支援型共同生活援助事業の情報収集
- ・公用車の計画的な更新
- ・サテライト型住居の検討

(4) 居宅介護事業

- ・新規利用者募集
- ・新規登録ヘルパー募集
- ・将来を見据えた人材の育成等

具体的事業

1. ハード面の事業について

事業ごとに必要な修繕や改修等を計画的に行っていきたいと思います。また、引き続き災害等に強い施設作りを目指し、利用者が安心して生活できるよう環境の整備に努めます。

- ・各グループホームのメンテナンス
- ・各作業場のメンテナンス
- ・公用車の計画的な更新
- ・旧職員住宅の解体

2. ソフト面の事業について

職員の処遇向上や働きやすい環境づくりのため、就業規則の見直しや業務効率化・省力化などの取組みを継続します。

- ・賃金改善のため処遇改善の取得、配分方法の見直し
- ・職員の負担軽減、業務効率化を目的とした介護ロボット等の導入検討
- ・新卒者確保に向けた情報収集等
- ・将来を見据えた人材の育成等

3. 各事業について

就労系事業

令和8年度は就労継続支援B型利用者41名、就労移行支援2名でのスタートです。就労継続支援B型事業、就労移行支援事業、就労定着支援事業を一体的に運営してまいります。

就労継続支援B型は、臨時応急的な報酬の見直しがあり報酬が下がることが決まっています。椎茸事業では今まで全ての菌床を1社から購入していましたが、ここ数年の気温上昇で夏季培養した菌床からの収穫量が伸びない状況を打破できそうにないため、菌床の購入先を拡げ、今年度は2社を比べながらの栽培に挑戦して工賃向上を目指します。また、利用者のインフラ整備のためハウス2棟にエアコンを設置し、一年を通して快適で安全な作業を提供していきたいと思えます。

就労移行支援は、昨年同様に利用者の獲得が難しい状況です。喫茶店みみずくで実習の受け入れなどを継続して新規利用に結びつけることができるよう努力していきます。就労定着支援は継続してサポートを続けます。

ハード面では、事業所の屋根と軒下の劣化箇所を修繕工事する予定です。

施設入所事業

施設入所事業は、長期入院中の1名を含め38名で新年度を迎えます。高齢化が進み、通院の頻度や医療的ケアの必要な方が増えています。歩行器や車いすを使用する方も増え、介助や介護度も上がっているため継続的に介護技術や強度行動障害がある方への支援スキルの向上に努め利用者が安心して生活できるよう支援します。

昨年度より欠員があるため、見学や宿泊体験の受け入れなど積極的に行っていきます。

ハード面では、設置から15年以上経過しているボイラー本体の更新や施設内のメンテナンスを計画的に進め環境を整えていきます。また、通院に使用している福祉車両は走行18万kmを超え更新時期を迎えます。安全な利用者の移動と職員の負担軽減に配慮して購入の検討を進めます。

生活介護事業

生活介護事業の利用者は44名です。毎日の散歩に加え、音楽や動画コンテンツを活用したダンスや体操で楽しみながら健康維持に努めます。また、イベントに合わせた貼り絵や工作、カレンダー作りで四季を楽しみ、人気のお菓子作りなどで意識的に五感を育てる活動に力を入れたいと思えます。

施設入所事業同様に欠員がありますので、養護学校や相談支援事業所等と情報を共有して新規利用者の受け入れに努めます。

今年度も1名の新卒者を採用することができました。今後も企業説明会への参加や情報発信でネットワークを広げながら継続的な人材確保につなげたいと思えます。また、親睦を深めながら長く勤めていただけるフラットな組織を目指します。

短期入所事業

短期入所事業は、引き続き利用者やご家族の状況やニーズに合わせて柔軟な受け入れをしていきたいと思えます。

共同生活援助事業

共同生活援助事業は、41名の入居者で新年度を迎えます。昨年の体験宿泊の受け入れに伴い、空室をより暮らしやすく改装しています。入居に関する相談には積極的に対応し、引き続き新規入居者の獲得に努めます。

ハード面では、建設から15年を経過するホームが2棟あり、設備のメンテナンスや更新の必要があります。春にはフピの屋根改修工事が予定されており、その後暖房設備の更新について検討していきます。故障などで計画的に進まない現状がありますが、入居者に迷惑がかからないように十分配慮して進めます。また、既存の8人乗りワンボックス車は14年使用しており、走行距離も22万kmとなりましたので入れ替えの検討が必要です。助成事業を視野に入れながら進めていきます。

人員配置については、パート職員の半数以上が70代という現場なので、なだらかな世代交代を意識して人材育成に努めます。

居宅介護事業

居宅介護事業は、定期利用者の長期入院や他サービスの利用が相次ぎ、運営に不安を感じるが増えてきますが、一方で高齢化、重度化に伴う運動機能の低下等で個々のサービス需要は増えています。今後も、サービス量をにらみながら、新規の利用者とヘルパーの獲得に努めます。また、人事について大きな転機を迎えますが、法人全体の人の動きも影響するため事業所間の連携が重要です。

昨年度は車両の不意な更新もあり、今年度はより一層努力する一年となります。長く利用いただいている利用者はもちろん、地域にお住まいの障がいを持つ皆さんが気に入った暮らしを長く続けられるようにと願い、積極的にサービスを提供して事業を継続していきます。